

<p>a 学校教育目標</p>	<p>故郷を愛し、故郷のために尽くし、自ら伸びようとする児童の育成</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>【ミッション】(自校の使命)「知・徳・体」の基礎基本を身につけ、郷土の発展を願う児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)・児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校 ・きまりを尊重し、自他を大切にしながら健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・郷土のよさと課題を知り、郷土のために力を尽くす児童を育てる学校</p>
-----------------	---------------------------------------	------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価計画				自己評価					改善方策	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の向上	児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる	1 児童一人一人の実態を把握し、児童に自己選択、自己決定させながら、学ぶ意欲を高め見通しをもって学習できる授業を行う。 2 ICT機器等を効果的に活用し、学びに組み込む。	・児童学習アンケートにおける児童の自己評価	肯定的評価80%以上	113%	101%	126%	A	○学習アンケートでは、「どんなことが分かれればよいのか考えながら学習している」と「自分がどのくらい学習を進めるのか自分で考え決定している」の項目が10月より下がっていた。ICTを学習に活用している児童は前期より上がっていた。ドリルパークやキャンパなどの学習コンテンツを活用したり、キャンパなどの学習コンテンツを授業で活用する児童が増えている。	○授業時間のはじめには、めあてを確認したり、学習中に選択肢を与えたりするなど、自己決定をする習慣づくりを行う。 ○ICTの活用では、隙間時間でのタイピング練習の継続、授業や家庭学習でのドリルパークの活用、授業でのプレゼンテーションの作成など、効果的にICTを使わせていく。	○			・一人一人の学ぶ意欲は高まっており、それに寄り添った指導が行われている。 ・児童一人ひとりの実態を把握し、目標達成に向けて学習内容や方法を工夫され行われていた。
		「学ぶ楽しさ・わかる喜び」を感じることのできる授業を行い、基礎学力を定着させる	1 教材研究を綿密に行い、児童実態に応じた教材の開発や発問の工夫を行う。 2 各児童に合った学習内容や方法を工夫するなど、授業改善を行う。	・単元末テストにおいて、期待値以上の得点をとった児童の割合	達成児童80%以上	100%	100%	125%	A	○単元末テストにおいて、期待値以上の得点を取った児童はどの学年も80%を超えていたが、前期に比べると下がっていた。どの学年も漢字や語彙・文法の得点が前期よりも下がっていた。	○国語では、年度末までに学年の漢字、下学年の漢字の定着に取り組み。文章を読み、キーワードを見つけたり、根拠を基に自分の考えを書いたりする力をつけていく。 ○算数では、学年末までに学年の内容の復習を実施し、基礎的な内容の確実な定着につなげる。	○		
豊かな心と健やかな体の育成	自分たちのきまりを尊重し、他者とのかわりを通して自己肯定感と連帯感を高める	1 児童主体による、島民や外部団体との交流活動等を計画的に実施する。 2 定期的に、お互いの良さや頑張りをもつて「見える化」し、認め合う活動を行う。	・他者の良さや頑張りをもつて紹介した児童の割合	達成児童80%	100%	100%	125%	A	○総合的な学習の時間や生活科の授業を中心に、佐木島の方と交流したり活動したりすることで、島の方の温かさを感じたり、自分たちのことを大事に思ってくれていることに気づいたりすることができた。 ○ 良いこと見つけ期会を毎週行い、児童全員が友達のよさや頑張りを見つけてカードに書いて伝えることができた。また、自分で考えて文を書けるようになったり、たくさん書くことができるようになったり、自分自身の成長に気づく姿も見られた。	○今後も、児童主体の交流活動を計画的に行い、交流活動を通してお互いのよさや自分のがんばりを実感できるようにしていく。 ○普段の生活の中でも、教職員が、がんばりやよさを伝えたり、子ども同士でもお互いのよさやがんばりを伝え合ったりする場を設定する。	○			・学年の垣根を越えた声掛けができており、児童の中に安心感が見られる。 ・島民や外部の方との交流活動を通じていきいきと過ごしているように感じた。郷土愛も醸成されていると感じた。 ・上級生・下級生と距離が近く、影響しい濃密な日々を過ごしている。
		自分の良さや興味・関心をもとに、自分の力を伸ばし、みんなのためになる活動を選択・決定させる。 2 定期的に、目標と取組状況について児童と話し合い、目標達成に向けて児童に見通しを持たせる。	・自分の目標を立て、継続的に努力した児童の割合(観察・アンケート)	達成児童80%	100%	100%	125%	A	○掃除や給食当番などでは、高学年が低学年の手助けをしたり、一人ひとり、自分ができることを進んで行おうとする姿が見られた。しかし、きまりを守ることに意識ができていない児童の姿も見られる。 ○ 自分で立てた目標を達成できるように、今後どうしたらよいかを考えながら努力している姿が見られた。	○きまりや、学校の課題について考える場をつくり、自分たちでよりよい学校をつくっていく意識を高めていく。 ○日常的にがんばりを評価する声掛けを職員が意識して行い、意欲が継続できるようにする。また、学活の時間などを使って振り返りを行い、自分の成長や今後に向けての取組について考える場を設定する。	○			
信頼される学校	佐木島の学校として島民から必要とされる存在となることができ存在となる	1 島内三地区に定期的に出向き、島民との交流活動を行う。 2 児童のメッセージ、学校生活の様子等を定期的に発信する。	・学校教育活動への満足度(保護者や町内会役員等へのアンケート)	肯定的評価90%以上	100%	100%	111%	A	○CSを中心に島民との交流を行えている。特に遠足や運動会では、島民の方と合同で開催することができた。また、みかんやアスパラ、卵等の農園に出向いて体験活動をしたり、コミセン祭りに参加したりする等、コミュニケーション能力の向上にもつながった。 ○毎月、学校の様子を学校だよりと双葉州で島民の皆様へ発信したり、港や郵便局など人の集まる場所に掲示したりすることができた。	○コミュニティスクール運営委員と協働しながら、めざす子ども像の実現に向けた取組を計画実行していく。 ○島内の各団体と連携を取りながら、島民と児童が交流する場を設定していく。 ○島内放送や回覧を利用しながら学校の情報を発信していく。	○			・地域住民に対して積極的に関わろうとする学校の姿勢が感じられる。 ・さまざまな交流活動を通じてより良い関係が築かれているように感じた。 ・須ノ上地区においては、交流は学校全体として少なく盛んではなく低下していると感じる。
		1 行事等の内容を精選し、効率的な業務を推進する。 2 学校準衛生委員会等で各自の勤務時間外在校時間を確認し、業務の見直しやサポート体制を構築する。	・学校全体の勤務時間外在校時間平均値	・勤務時間外在校時間平均値を、月45時間以下。	100%	100%	100%	100%	A	○勤務時間外在校時間が、45時間を超えなかった割合は100%であった。今後も行事等の内容を精選しながら業務改善を進めていく。 ○月に1度の準衛生委員会で勤務時間や業務負担のある教職員の心身の状態を確認しながらフォローし合える話し合いが行えた。	○ICTを活用した業務効率化をさらに推進する。 ○月に1度の準衛生委員会などを中心に、情報を共有し合い、風通しの良い職場を作っていく。	○		

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達)

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。